

富山県の伝統芸能「こきりこ唄(ささら踊り)」の 教材への活用について

A Case Study on the Effectiveness of "Kokiriko (Sasara Dance)" as a Teaching Material

渡邊 洋 末永 祐介 平田利矢子

WATANABE Hiroshi SUENAGA Yusuke HIRATA Riyako

1. はじめに

本研究は富山県の南西部、南砺市付近に伝わる伝統芸能である「こきりこ唄」を体育科の教材として活用することについて検討するものである。

本研究の着想に至ったのは、平成24・25年度の東京女子体育大学女子体育研究所共同研究「旧立川市立玉川小学校有効活用事業との連携に関して」において旧多摩川小学校跡地で行うプログラム開発のために南砺市上梨地区を訪ねて交流を持ったことがきっかけである。「こきりこ唄」が伝承される地域は、山深く谷合の集落が寄り合った村であり、戦後道路開発が進むまでは「陸の孤島」と呼ばれるような地域であった。そのため、古い伝承が数多く残されており、

「こきりこ唄」は日本最古の民謡といわれている。平成13年に越中五箇山筑子唄保存会が編集発行した「こきりこその由来と歴史ほか」を読むと文亀二(1502)年に白山宮^{注1})が上梨地区に移設されて以降、江戸期を通じ複数の古文獻にこきりこの記述がある。また、こきりこ唄を含む「五箇山の唄と踊」が、昭和48年から国の選択無形民俗文化財に指定されている。越中五箇山筑子唄保存会によって、歌詞、踊り、楽器など調査が行われ記録保存されていることから、その発生した背景や動きの意味など学ぶことができる。

当該地域に生活する現地の人々によって、祭事等を通して伝承されていくことが望ましい伝承の仕方であると思われるが、南砺市については人口が減少してきており(図1)、「こきりこ唄」が伝わる五箇山地方

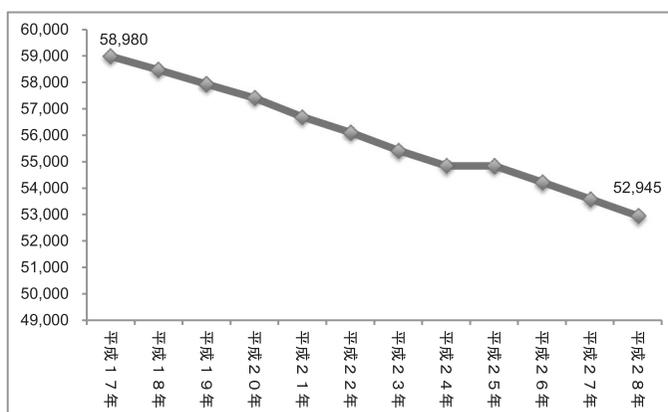


図1. 南砺市の人口推移

※南砺市地方創生推進課統計係(2016)住民基本台帳人口の推移

では高齢化率が42.2%と南砺市全体の平均を上回っている(表1)。高齢化が進むことで、伝承を担う若者も少なくなっており、それが地域での伝承を困難にする可能性がある。くわえて、現代社会においては、余暇活動が多様化していることから、余暇に伝統芸能を楽しみながら後世に伝えていくというこれまでに歩んできた道筋を辿ることが困難になってきている^{注2)}。これらのことから、今後も広く確実に伝統芸能を伝え残していくためには、これまでと同じような伝承を期待することは困難であり、新たな伝承の道を探っていく必要に迫られている。

一方で、我が国の学校教育における「伝統芸能」は、教科では主に「音楽」と「体育」の2つで扱うことが可能である。しかし、音楽ではその音楽性に着目し「鑑賞」の学習で取り上げることが中心となっていることから、「踊り」と「音楽」からなる伝統芸能をどちらも学習内容として学ぶことができるのは現時点では「体育」のみである。このような伝統芸能を体育の授業の中で行うには、平成20年改訂の学習指導要領では「ダンス(小学校高学年では表現運動)」領域にお

ける「フォークダンス」において取り扱うこととなっている。平成20年改訂の学習指導要領における基本的なコンセプトに基づいて、フォークダンスで学習すべき技能は体系的に整理されており、それらの学習内容に応じて具体的な踊りも例示されている(表2)。また、平成20年改訂の学習指導要領では、体育のすべての領域が必修となったことから、「ダンス」領域も全ての児童生徒が学習することとなっている。

これらのことから、「こきりこ唄」が学校体育において教材として広く適用されれば、伝承の一つの道が拓けるものであり、フォークダンスで扱う踊りの選択肢が増えることは、児童生徒の学習意欲を喚起する視点からも望ましいことであると考えられる。

2. 研究の方法

○「こきりこ唄」の教材化

現在体育科における教材は、岩田(1987)によって「学習内容を習得するための手段であり、その学習内容の習得をめぐる教授=学習活動の直接の対象と

表1. 五箇山旧町村別65歳以上人口の推移と高齢化率

(人、%)		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
平	65歳以上人口	475	449	433	430	431	435	432
	総人口	1,156	1,105	1,073	1,062	1,065	1,045	1,023
	高齢化率	0.411	0.406	0.404	0.405	0.405	0.416	0.422
上平	65歳以上人口	255	251	254	261	263	264	260
	総人口	780	769	742	723	715	704	685
	高齢化率	0.327	0.326	0.342	0.361	0.368	0.375	0.380
利賀	65歳以上人口	306	294	290	278	275	271	269
	総人口	756	724	705	668	618	589	574
	高齢化率	0.405	0.406	0.411	0.416	0.445	0.460	0.469

※南砺市, 2016年(各年3月31日現在)南砺市の人口増減と高齢化率の推計について

表2. フォークダンスの内容と踊りの例示

技能	小学校	中学校		高等学校	
	第5学年・第6学年	第1学年・第2学年	第3学年	入学年次	その次の年次以降
内容	フォークダンスでは、踊りの特徴をとらえ、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。	フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。	フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。	フォークダンスでは、踊り方の特徴を強調して、音楽に合わせて多様なステップや動きと組み方で仲間と対応して踊ること。	フォークダンスでは、踊り方の特徴を強調して、音楽に合わせて多様なステップや動きと組み方で仲間と対応して踊ること。
踊りの例示(日本の民謡)	<ul style="list-style-type: none"> ● 阿波踊り ● ソーラン節 ● エイサー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 花笠音頭 ● 春駒 ● 炭坑節 ● 鹿児島おはら節 	<ul style="list-style-type: none"> ● よさこい節 ● 越中おわら節 	<ul style="list-style-type: none"> ● 佐渡おけさ ● さんさ踊り 	

※文部科学省(2013)学校体育実技指導資料第9集「表現運動系及びダンス指導の手引」

なるもの」と定義づけられている。これは、「こきりこ唄」が即教材となるのではないということを示しているものであり、「こきりこ唄」を教材として適用するには「授業づくりに向けての教師の願いやねらいに基づく意図的な教育的働きかけの構造」が必要であるとされている。

そこで、本研究では「越中五箇山筑子唄保存会」が伝承する「こきりこ」のうち、「ささら踊り」と「手踊り」を取り上げ、学習指導要領に定められる学習内容が学びやすくなるように、「テンポ」と曲の「長さ」、踊りによる「移動の仕方」を工夫し、教材化した^{注3)}。

具体的な加工の内容については次の通りである。

- ・ 曲のテンポ
原曲(BPM60前後)のかなりゆっくりとしたテンポから、BPM80前後まで早めた。
- ・ 曲の長さ
原曲の多くは短くても3分超、長いものでは10分を超える長さで伝わっているが、授業で扱うことを考え、手踊り、ささら踊りともに1分程度に短く編曲した。
- ・ 移動の方法
伝承されるささら踊りは、後ろに進んでいくことを大きな特徴としているが、本研究では多人数でも同時に踊ることを可能とするため、前後、左右、輪になって回りながら踊ることも取り入れた。

以上のように教材化した「こきりこ唄」が、フォークダンスにおける教材として適用可能であるかどうかを検討することとした。

従来、教材としての適用可能性の検討については、技能面と情意面の両側面から行うべきものであるが、今回検討を行う学校の都合により、十分な長さの学習期間を設定できなかった。そのため、本研究ではその適用可能性を情意面からのみ検討するものとする。

○実施場所と対象

実施場所：埼玉県N市O小学校

対象：ダンスクラブ(課外活動)(4年生5名、5年生3名、6年生7名、計15名、内男

子1名、女子14名)

○実施日と時間

第1回：

平成28年7月14日(木)15:00～15:45

第2回：

平成28年7月12日(月)15:00～15:45

第3回：

平成28年9月29日(木)15:00～15:45

第4回：

平成28年10月20日(木)15:00～15:45

第5回：

平成28年11月11日(金)13:10～13:50

全5回

○指導者

東京女子体育大学ストリートダンス部4年生(大学ストリートダンス部で4年間活動)。指導前に富山県南砺市上梨地区で踊りを学習した後、指導を実施。

○分析の方法

第2回から第4回までの3回、クラブ活動終了後に参加児童より自由記述による感想文を提出してもらった。提出された感想文は、以下の手続きを経て計量テキスト分析を行った。

- (1) 提出された感想文のテキスト化
- (2) ひらがなを漢字に変換。明らかな誤字脱字の修正。
- (3) 「こきりこ節」「ヒップホップ」を強制抽出語として設定。
- (4) 実施日ごとに頻出10語を出力。
- (5) 集計単位を「文」、最少出現数を「2回」に設定し共起ネットワーク図を作成。

これらの手続きは「KH Coder Ver.2.00f」を使用して行った。

なお、実践では「こきりこ唄」を「こきりこ節」と伝えて行ったため、分析は「こきりこ節」と統一して分析を行うものとする。

○第3回(9月29日)の結果と考察

第3回(9月29日)では移動しながら踊ることを指導している。頻出語に目立った特徴は見られないが(表4)、語と語との関係性をみると(図3)、「入れ替わる」「足」「間違える」「リズム」「前後」などの間に関係がみられることから、簡単な踊りでも移動を加えたことで動きに多様性が生じ、子供たちの関心をひくことができたと考えられる。

しかしこの日は「洋楽」という語に「楽しい」という語が関係していることから、何人かの子供は、早速こきりに飽きてしまったものと考えられる。

表4. 第3回における頻出10語

頻出語	出現回数
踊る	10
ダンス	9
思う	6
踊れる	6
こきりこ節	5
ヒップホップ	4
今度	4
上手	4
リズム	3
動き	3

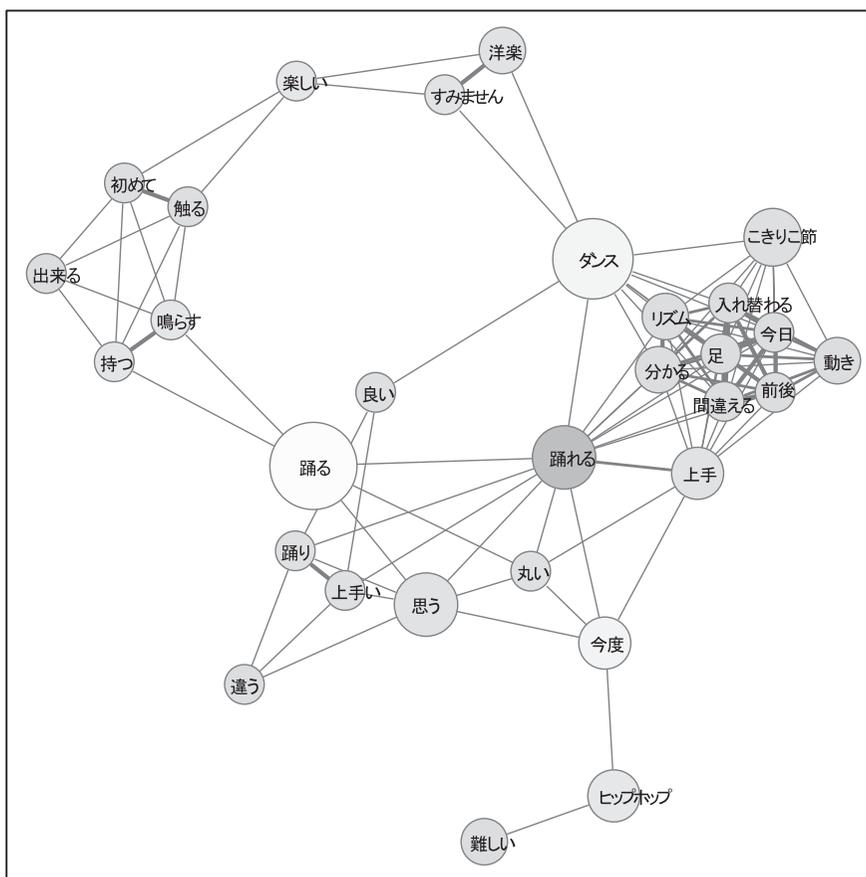


図3. 第3回(9月29日)の共起ネットワーク図

○第4回(10月20日)の結果と考察

第4回(10月20日)では、ささら踊りを取り上げたことで、「踊り」「持つ」「楽しい」という語が多く出現し(表5)、それぞれの語の間に関係性もみられた(図4)。第3回で飽きてしまった子供も、ささらが導入されたことで、また新たな動きの課題が生じ、違った楽しさに触れられたものと考えられる。

しかし、こきりこ節と切り離されたところに「洋楽」「ヒップホップ」「ダンス」「好き」という語の集まりが出現していることから、こきりこ節よりも「洋楽」や「ヒップホップ」の方が好きだと感じている子供がいたことが分かった。この背景には、今回の実践では十分に「こきりこ」が発生した背景等についての説明を子供たちに行うことができなかったことが考えられる。

表5. 第4回における頻出10語

頻出語	出現回数
楽しい	8
踊る	8
持つ	7
ダンス	5
ヒップホップ	5
思う	4
手	4
踊り	4
違う	3
音	3

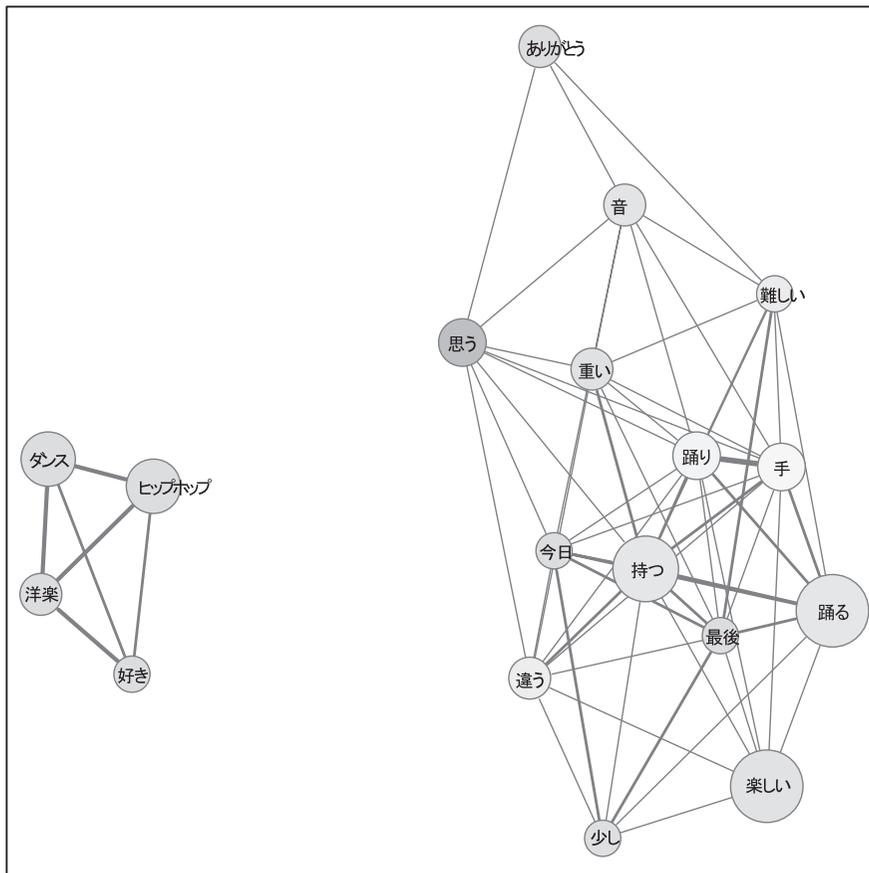


図4. 第4回(10月20日)の共起ネットワーク図

4. 結論

以上のことより、以下の諸点が明らかとなった。

- ▶こきりこ節のゆっくりとしたリズムは、子供の関心をひくものである。
- ▶こきりこ節は動きがやさしすぎるために、飽きが来るのも早い踊りである。
- ▶こきりこ節に移動の変化をつけることで、子供の関心を高めることができる。
- ▶ささらなどの道具を用いることで子供の関心を高めることができる。

これらのことより、「こきりこ」は小学校高学年「フォークダンス」において十分学習効果が期待できる教材になり得る踊りであることが分かった。しかし、踊りが発生した背景や、一つ一つの動きの意味などを取り上げずに、今回のように「動き方」だけを指導してしまうと、子供たちの関心や意欲を継続することは難しい。そのため、今後「こきりこ」を「フォークダンス」の教材として適用するためには、発生の背景や、動きの意味などを指導し、それらを考えながら踊ることを大切にしていける必要がある。

また、今回は実践校の都合で十分な学習期間が確保できず、教材としての適用可能性を検討する上で重要な技能面での検討を行うことができなかった。今後授業での単元化を計画し、一定期間のまとまった学習期間を設定することにより、「こきりこ唄(ささら踊り)」が技能的にも学習可能であるのかといった検討を行うことが課題として残された。

注1) 白山宮本殿(国指定重要文化財)秋にこきりこの舞が奉納される。

注2) NHK放送文化研究所による国民生活時間調査(2015年)によると、2010年の結果と比較して、地域の活動などに参加する「社会参加」を行う時間が平日については大きな変化はないものの、土曜日、日曜日ともにやや減少している。

注3) 現在「越中五箇山筑子唄保存会」が伝承する

踊りは、奉納こきりこ踊り(しで竹踊り)、放下僧のささら踊り、こきりこ手踊り、こきりこ扇子踊り、神楽舞、編竹踊りの6つである。

参考・引用文献

- 1) 越中五箇山筑子唄保存会(2001)こきりこそ由來と歴史ほか
- 2) 南砺市地方創生推進課統計係(2016)住民基本台帳人口の推移
http://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/secfolder/johoseisaku/tokei_top.files/jinko%20shizen/jinko_juki/jinkou1.xls
- 3) 南砺市地方創生推進課統計係(2016)旧町村別65歳以上人口
http://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/secfolder/johoseisaku/tokei_top.htm
- 4) NHK放送文化研究所(2015)国民生活時間調査報告書
- 5) 岩田 靖(1987)体育科教育における教材論(Ⅰ):「教材」概念の明確化に向けての前提的考察, スポーツ教育学研究 7(2), 27-40.
- 6) 文部科学省(2008)小学校学習指導要領解説(体育編)
- 7) 文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説(保健体育編)
- 8) 文部科学省(2008)高等学校学習指導要領解説(保健体育編)
- 9) 文部科学省(2013)学校体育実技指導資料第9集「表現運動系及びダンス指導の手引」

謝辞

調査・実践の実施に当たり、多忙な中で研究協力者として賛同下さいました関係各位、実践に際しご協力をいただいた小学生ダンスクラブ児童、越中五箇山筑子唄保存会の岩崎喜平、大瀬輝夫、児童への指導を担当した遠藤帆香の各位に、ご協力並びに貴重なご助言をいただいたことに心より感謝申し上げます。